

過労死防止学会 第5回大会(龍谷大学深草 C 2019年5月26日)
共通論題 「働き方改革」関連法制定1年、職場の健康その実態を問う

司会：粥川裕平

名古屋工業大学名誉教授
かゆかわクリニック院長

昨日からもう24時間に達して、だいぶお疲れモードではないかと思えます。

第5回過労死防止学会で、昨日の特別シンポジウム、今日の午前は非常に活発な分科会が7つもあり、議論をされました。これから3時間、働き方改革関連法制定1年で、果たしてこの国の職場の健康実態はどうなっているのか、各部署の皆さんのご経験を踏まえながら、3人のスペシャリストをお招きいたしました。

一人目は、金子雅臣さん、職場のハラスメント研究所所長です。現在、国会で審議されているパワーハラスメントの法制化で提起されている課題はいったい何なのか、ということについて、話していただきます。

二人目は、天笠崇さん、精神科医で、代々木病院にお勤めです。長時間で働くということと、鬱病や自殺にいかなる関係があるのか。長時間労働だから鬱病になり自殺した、それを医学ほどの程度客観的に解明しているのか、ということを発表していただきます。

三人目には、午前の分科会で問題になりました長距離トラックの運転手や、24時間営業のコンビニなど、夜間の休息や、在宅の休憩時間、インターバルをどれくらいとれば人間の健康が守れるのか、ということについて、佐々木司さんをお願いしています。佐々木さんは労働科学者で、大原記念労働科学研究所にお勤めです。交代勤務・インターバルと過労死・過労自殺、これが関係あるのかないのか、こういう点についてご発表をいただきます。

午前の分科会でもありましたように、日本のおかれている状況は大変に厳しいものがあります。今日お集まりの皆さん「私は幸せである」と思っている人は手を上げてください。素晴らしいですね。(笑いと拍手) 残念ながら、国連の幸福度調査で、日本は54番目です。韓国、ロシアと同じぐらいです。北欧に比べると、大変幸福度の低い国であることが、国連調査でわかっております。それでは「日本はものづくり世界一である」と思っている人、手を上げてください。1人もいませんね。日本の1人あたりのGDPはかつてベスト10、20年前には何と世界第2位になっていましたが、今や世界25位です。G8とかG20にも入らない、括弧付きの「先進国」です。

そういう日本が、自殺率では世界一でしたが、韓国に追い抜かれました。今、韓国と日本、そして中国が自殺率で世界の金メダルを争っている、という厳しい状況になっていて、とてもこの国が住みやすい、幸せな国であるとは言えない状況に置かれています。

そういう中で、名だたるグローバル企業は、国際競争の中で、どんどん働いて働いて、身体も脳もすり減るくらいに働いて、鬱病が増えています。100万人を超える人が鬱病に罹患しています。抗うつ薬を飲んでいる人が300万人を超えているというデータが出ています。

それぐらい厳しい中で、過重労働やパワハラが、最後にとどめを刺すかのように、働く人を自殺に追いやっているという現実があるわけです。

そういう点から見ると、今世紀に入って、30年続いた平和に成る時代が終わり、一部の人たちは、新しい元号になったということで、提灯行列したりして騒いでいますが、ちっとも良くなっていない。過労死や過労自殺は後を絶ちませんし、福島の大東電力第一原発のメルトダウンによる放射能汚染で避難している人は未だにたくさんおられ、夜寝られなくてむちゃ食いして太る人も大変多いわけです。未だに長時間過重労働とハラスメント問題は続いています。

加えて、労働者派遣法などにより、非正規雇用が全勤労者の3分の1を占めるようになりました。20代、30代の若者たちの半数以上が非正規雇用です。戦後70数年の日本の歴史では無かった時代が、今おきているわけです。もう退職金はもらえない、年金ももらえない、夢も希望も無い中で働いている30代、40代の方がたくさんいます。しかも、そういう人たちが早期退職を迫られています。

そういう深刻な中で、交代勤務の問題、あるいはハラスメントの問題、長時間過重労働が心、脳、健康に及ぼす影響について、ぜひ議論を深めようではないか、と考えました。

それでは早速、各シンポジストに25分プレゼンをいただき、総合討論に入るという流れに進めます。

一人目のシンポジストの金子雅臣氏は、1943年新潟県の生まれで、1968年静岡大学を卒業後、69年に東京都庁に入庁され、35年間東京都庁の労働人事課で勤務されました。職の無い方たち、あるいは失業しそうな人たち、ハラスメントに遭った人たちからの相談を受けられ、著書は20冊ほどあるという方ですが、現在は労働ジャーナリストで、一般社団法人職場のハラスメント研究所の代表理事です。パワハラの相談、パワハラ解決法という著書があります。

それでは金子さんのご講演をお願いいたします。

(反訳：笠井弘子、編集：高田好章)